

令和2年度第1回和光市地球温暖化対策委員会議事要録

令和2年8月26日(水)
午前10時～11時40分
603会議室

出席者：金塚委員、後藤委員、川島委員、芳野委員、松田委員、小林委員、本多委員
事務局：亀井環境課長、加藤主幹、塩野、金岡
傍聴者：0人

1 開会

司会 加藤主幹

2 課長あいさつ

亀井環境課長

3 自己紹介

名簿順に委員、事務局の自己紹介

4 委員長・副委員長の選出

委員長に芳野委員、副委員長に松田委員が選出される

5 委員長・副委員長あいさつ

芳野委員長、松田副委員長よりあいさつ

6 議題

(1) 和光市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)【改訂版】に基づく施策の評価について

【資料「令和元年度【緩和策】実施状況ヒアリングシート」、「平成30年度【緩和策】実施状況ヒアリングシート」、「令和元年度【適応策】実施状況ヒアリングシート」、「平成30年度【適応策】実施状況ヒアリングシート」、「和光市における二酸化炭素の総排出量と和光市民一人当たりの排出量他」に沿って事務局より説明】

質問・意見

○ 水道道路沿いは以前は畑だったのに資材置き場になっている。それによりCO₂も増えたのではと思っている。道路の拡幅等の話もあるようだが、どうなっているのか。

→ (事務局回答) 254バイパス延伸が計画決定され、それに伴い和光北インタ

ーチェンジ東側の区画整理と水道道路の拡幅を県も含めて検討していると聞いているが、具体的な時期等は分からない。

- 施策1①「家庭・事業所における再生可能エネルギーの導入支援」とあるが、課題のところでは平成28年度に導入補助制度は休止しているとある。どのような理由で休止しているのか。
 - （事務局回答）補助制度を休止にした理由が分かる資料が手元にないのだが、昨年度実施された補助・扶助事業の見直しの結果、休止状況が続いている当補助金事業は廃止することとなっている。
 - （補足説明）当時の財政状況等もあるかと思うが、これまで補助金事業を実施してきた結果として、太陽光発電システムは平成20年度からの9年間で326件、省エネ機器は平成25年度からの4年間で計95件となっている。また、最近では、戸建て住宅でも建築時に設置している例もあり、順調に普及が進んでいると判断し、休止したものにとらえている。

また、昨年の補助・扶助事業の見直しにより、再生可能エネルギーを含む国の動向を踏まえ新たな枠組みを検討することとして補助金事業は廃止する方向性にはなったが、再生可能エネルギー等に関しては技術革新も盛んに進んでいるため、環境課としては、このような場でご意見をいただきながら新たな制度設計を検討する必要があると認識している。
 - 太陽光発電パネルの設置費用は以前よりずいぶん下がったが、パネルを設置しても電力自由化の影響により電力をなかなか買ってもらえないという状態がある。国の補助もなくなっているので、再生エネルギーの重要性と普及について考えれば市の補助制度は必要と考える。また、公共施設での積極的な導入も必要である。廃止というのは後退していると思う。
 - 再生可能エネルギーを広めていくことは地球温暖化防止につながるので、ぜひ補助制度の復活を検討していただきたい。

(2) 第3次和光市環境基本計画策定の進捗状況及び令和2年度第1回和光市環境審議会の開催結果について

【資料「第3次和光市環境基本計画策定方針」、「第3次和光市環境基本計画をつくるための市民アンケート」、「環境についてのアンケートのおねがい（小学生アンケート）」に沿って事務局より説明】

6月の環境審議会で、「策定に当たっての方針の検討」、「アンケート調査について」、「計画策定スケジュールについて」話し合われ、現在は、実施したアンケート調査の集計分析、環境課題の抽出と骨子案の検討を行っている。

今後、9月の環境審議会では骨子案を提示し、素案の策定につなげていく。

質問・意見

- 質問・意見等なし

◆ 第3次和光市環境基本計画の骨子案・素案を策定していくに当たっての事務局からの質問事項

① 二酸化炭素排出量の数値目標の設定について

現行計画では、和光市民一人当たりの二酸化炭素排出量を2020年度までに25%削減することを目標としているが、第3次計画においての数値目標についてご意見を伺いたい。

質問・意見

- 以前は家庭ごみを処理する関係の補助金があったと思うが今はどうなっているのか。家庭の中での一番の問題は生ごみの処理だと思う。普通に庭に埋めても土に還るまでに2-3週間かかってしまう。生ごみ処理機に補助金が出るといいと思う。

→ (事務局回答) 確かに何らかの補助金があったのは存じているが、手元に詳しい資料がないため、後日改めて回答する。

《後日、資源リサイクル課へ確認》

家庭向け生ごみ処理機購入費補助制度は、申請者の減少等により平成22年度をもって廃止となっている。現在はリサイクル活動推進費補助金(市内団体の回収した古紙やビン・カン等について1kg当たり3円を助成)やごみ集積所の資材配付を行っている。

- パリ協定により2030年度までに二酸化炭素排出量を26%削減することが掲げられ、日本でも26%の削減目標が打ち出され、それに基づいて県が25%、和光市でも25%の削減目標を掲げている。和光市でこれを達成するには一人一人が非常に努力しないといけないと思うが、目標にすることが大事だと思う。環境基本計画においても何らかの目標値を掲げていただきたい。

→ (事務局回答) 第3次環境基本計画には二酸化炭素排出削減量の目標値を記載することになるかと思うが、その計画期間での目標値の設定が必要となる。

最終的には2050年度に80%削減や排出実質ゼロなどの目標があるが、具体的な排出量が把握できるまでのタイムラグの問題等もあるため、ご意見を伺った。

→ この委員会としては、国や県の目標に基づいて目標値を掲げて、それに向けて緩和策や適応策などの効果をあげていくしかないと考える。特に家庭からの排出量が下がらないため、家庭の中にいかにこの削減目標を浸透させていくかが重要だと考える。

② 現行計画で挙げられている施策について

社会動向などを踏まえて内容の変更が必要と考えるか。また、変更が必要な施策についてはどの様に変更したらよいか等ご意見を伺いたい。

質問・意見

- 今後の進捗状況や審議会等の意見もあるかと思うので、事務局の方でまとめておいていただきたい。

③ 気候変動について

気候変動や異常気象等が深刻化している状況についてご意見を伺いたい。

質問・意見

- 去年の台風では新河岸川が溢れそうになったり、小さな河川が溢れたりした。このまま温暖化が進むと災害が発生するリスクが高まるため、重点的に対策をしていただきたい。
→（事務局回答）承知した。

(3) その他

今後、9月の環境審議会にて骨子案を提示し、素案の策定につなげていく。

次回の会議では、計画の骨子案及び市民・小学生アンケートの集計結果を提示するので、素案の作成に向けてご意見を伺いたい。会議は10月頃に開催を予定しており、日程が決まり次第お知らせする。

なお、3回目の会議は11月頃に素案についてご意見を伺うよう予定している。

質問・意見

- パブリックコメントは行うのか。
→（事務局回答）9月の環境審議会で骨子案を提示した後、素案を策定し、パブリックコメントを行う流れとなっている。
- 策定方針中にSDGsの視点を取り入れるとあるが、SDGsの概念を分かりやすくかみ砕いて広報等で周知してほしい。策定方針をそのまま掲げても市民には理解されないのではないか。SDGsに限らず分かりやすい情報提供をしないと施策は浸透しないと思う。広報という資源を使い、市民に分かるような内容で周知してほしい。
→（事務局回答）現行計画の施策とSDGsとの関係は一程度整理している。第五次総合振興計画の方でも基本構想の中で市民生活の目標像とSDGsとの関係性が整理されているので、それらを踏まえながら第3次環境基本計画の策定作業を進めていきたい。また、周知についてはご指摘いただいた点を踏まえて行っていくようにする。
- 会議の場以外で事務局から委員に意見を聴取したい場合は、通知やメール等で連絡してもらえれば、メールやファックス等で回答できると思う。

7 閉会